



Title	『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』 第11号 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2013, 11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50792
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』

第11号 刊行にあたって

本センターは1954年に留学生別科として設立され、1991年に留学生日本語教育センターへと改組、そして、予備教育開始50周年と本学の国立大学法人化を契機として、2005年4月に教育と研究のいっそうの充実を目指し、日本語日本文化教育センターへと改称いたしました。その後2007年、合併により大阪大学日本語日本文化教育センターとなって、現在に至っています。2011年には「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点」に認定され、名実ともに日本における日本語・日本文化教育の中心的存在として教育・研究活動を進めています。

これまで、研究留学生、学部留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生などさまざまな留学生を多数受け入れ、その間、留学生の多様なニーズに応えられるよう教育カリキュラムの工夫・改善を重ねてまいりました。よりよいカリキュラムの開発には、日頃の教育の中から生み出されてきた方法論や教材論を共有し、蓄積することが肝要であると考え、本センターでは2003年3月に、専任教員、非常勤講師がともに自由に日頃の成果を発表できる場として本誌の創刊号を刊行いたしました。また、このほかに、教育の質の向上を目指して、さまざまなFD研修活動を行っています。

本誌も、今号で11号となりました。1年に1号を刊行してきて、今年で11年目ということになります。これまでの10年間、大学自体にも、あるいは留学生をとりまく世界にも、大きな変化がありました。これからの10年間は、恐らくこれまで以上に激動の波が訪れるのではないかと思います。そのような時代の中にあっては、様々な出来事が、誰にとっても、初めての経験となることでしょう。それらに対処するためには、常に新たな心構えをもってことに当たらなくてはなりません。11年目という新たな10年間のはじめの年を迎えたことを契機に、初心に返り、よりすぐれた紀要を専任教員・非常勤講師がともに作って行けたらよいと思います。

2013年3月

『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』

編集委員会